

体の負担減らして根治

肺がんや肺移植に実績

呼吸器外科

呼吸器外科は、肺がん、重症筋無力症、縦隔腫瘍（左右の肺の間に発症する腫瘍）、気胸、膿胸、気腫性肺疾患など、呼吸器疾患全般の外科診療に携わっており、肺がん、縦隔腫瘍、肺移植に、特に実績があります。また、呼吸器内科、放射線診断・治療科が連携した呼吸器センターで診療を行っているため、同じ病棟内で、診断から内科・外科・放射線治療までを迅速に行えます。

術を積極的に取り入れていく。進行した肺がんに対しては、呼吸器内科や放射線科と連携し、がんを縮小する化学療法後に、根治のための外科手術を行います。さらには、これまで手術不応と考えられていた肺がんに対して、飛躍的に進歩した内科治療によって手術ができる状態になり根治を目指す場合もあり、手術適応はますます広がっています。

希少腫瘍である縦隔腫瘍の診療にも国内有数の実績があり、内視鏡手術を積極的に行うことで患者さんの負担を軽減しています。進行した腫瘍にも積極的に集学的治療を取り入れ、手術を基本とした治療法を提案しています。

本院は肺移植実施施設でもあり、日本初の脳死肺移植を実施して以降、脳死肺移植は57例、心肺同時移植も3例（令和元年11月現在）行っており、患者さんの予後も順調です。専門チームによる肺移植外来を設置し、全国から肺移植の適応となる呼吸不全の患者さんを受け入れています。

患者さんの負担を軽減しながら根治を目指すため、低侵襲手術も以前より積極的に導入してきました。肺がんや縦隔腫瘍において、ロボット支援手術（平成30年から保険適用）の実績を重ねています。胸腔鏡手術においても、切開が1カ所みの単孔式を導入しており、手術創が小さいことで、術後の痛みや感染症などの発症が軽減します。

大学病院の使命は、難治疾患に悩む患者さんに、診療科の枠を超えて医療者が結集し、集学的な治療を行うことです。当科には日本外科学会指導医4名、呼吸器外科専門医11名が在籍しています。そして、呼吸器疾患の専門知識をもった看護師、呼吸機能の改善をサポートする理学療法士などを加えたチームによる、安全で丁寧な診療を心がけています。

肺がんは進行してしまうと予後が悪く、発症予防に何より大切なのが「禁煙」です。また喫煙により肺の機能が衰えていると外科手術ができません。私たちは患者さんに寄り添い、一人一人の人生やQOL（生活の質）に配慮した治療と一緒に考えていきたいと思っています。決して諦めず、紹介状を持って当科にご相談ください。

小児医療センター

子どもに最良のケアを 専門職と寄り添う医療



小児医療センターは小児内科系と小児外科系のスタッフが連携して、診療を必要とするすべての子どもたちに総合的で質の高い専門的な医療を提供しています。平成20年の開設以来、多くの先進医療や地域連携、救急医療に貢献してきました。88床を備えており、高度救命救急センターや集中治療部で治療した後の継続医療を行うほか、緩和医療にも取り組んでいます。

入院生活をリラックスして過ごせるよう、病棟内には明るい森をイメージして、廊下の壁や病室の扉に木々や動物のイラストを施しています。プレイルームには子どもサイズのテーブルや椅子、絵本などをそろえ、アットホームな雰囲気や食事や家族との面会ができるようにしています。

子どもに合った最良のケアができるよう、医師や看護師に加えて、薬剤師、保育士、チャイルド・ライフ・スペシャリストなど多様な専門職がスタッフとして関わっています。

薬剤師は、成長に応じた薬の量の調整や、薬を飲むのが苦手な子どもへのケア、新しい薬を始めるときにわかりやすく説明することで、治療の質を高め、幼い患者のストレスを減らしています。

病児保育士はプレイルームで集団保育や絵本を読み、子どもたちに楽しい時間を過ごさせています。チャイルド・ライフ・スペシャリストは子どもや家族の心の負担や苦痛を和らげる専門職です。遊びや話を通じて、幼い子どもが治療について理解できるよう支援したり、不安な気持ちに寄り添ったりしています。入院中の医療事務をサポートするクラークや、退院後に安心して在宅治療を始められるよう支援するソーシャルワーカーもそろい、ご家族のケアも含めたサポート体制を組んでいます。



小児医療センターの入り口近くに完成した待合室

同伴のきょうだいも 安全安心

小児医療センターに待合室

小児医療センターでは、感染症対策のため15歳未満の子どもの面会を禁止しています。そのため面会について来られた小さな兄弟姉妹はセンター内に入ることができず、センターの扉の外、エレベーターホールで待っていただくしかありませんでした。この状況は、安全確保や患者サービスの観点から、かねてより問題となっており、安全安心な待機場所の確保が望まれていました。

この度、中島和江病院長補佐を座長とする患者家族（同伴児童）待合スペース検討ワーキンググループが設置され、院外スペースも含めて種々の候補地を検討しました。その結果、ご家族の安心や利便性を考慮し、センター入り口にあったリネン庫を待合室に改修することにしました。リネン庫を移動するなど、センターの多大なご協力の下、待合室は昨年11月末に無事完成いたしました。

センター内から見守りができるよう、待合

室と廊下との間に大きな窓と、非常用の扉を設けています。待っている兄弟姉妹の退屈を和らげるためDVDを流すモニターも設置しました。また、センターの看護師により楽しい装飾も施されました。面会に来られたご家族が安全安心、快適に過ごしていただける場となるよう願っています。

ホスピタルミニ・ニュース TOPICS

クリスマス回診

12/19



12/24



サンタ配膳

12月19日に毎年恒例のクリスマス回診が行われ、本院の医師や看護師、タレントの西田ひかるさんがサンタやトナカイに扮して、Osaka Great Santa Run（実行委員長：澤芳樹心臓血管外科長）から寄贈されたクリスマスプレゼントを小児医療センターに入院中の子供たちへ届けました。また、12月24日のクリスマスイブには、栄養マネジメント部によるサンタ配膳が行われました。

クリスマスコンサート

12/25



梅花中学校・高等学校ハンドベルクワイヤー部による演奏

延原事務部長おすすめ

中華御膳



- 汁無し担々麺 ●エビマヨ ●ワンタンスープ
- ご飯 ●ミルクティープリン

「食事から元気になっていただきたい」と延原事務部長と栄養管理室で検討をして、中華料理を昨年11月22日に提供しました。食器の下敷台紙は、明るい黄色の背景に、中国の観光地を載せた色鮮やかなものとなりました。

病院食の薄味のイメージを払拭するために、唐辛子や山椒などの香辛料を使ってメリハリをつけ、マヨネーズやごま油を使用し、香りやコクを出しました。デザートは流行に合わせたミルクティープリン！食欲のない方にも食べていただきやすいように、茶葉を何種類も試して作りました。「中華料理が病院で提供されるなんて驚きました」「しっかりと味付けされていておいしかった」とうれしい感想をいただきました。